

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



森 久夫 農業（農業及び蚕糸）／総合技術監理部門

勤務先：北海道立北見農業試験場技術普及部

私は、東京生まれの東京育ちです。東京と言っても、雑木林やキャベツ畑が広がり、通学途中には牛小屋の見える、そんな農村風景の残る土地で育ちました。そのような原体験と東京生まれで空襲や疎開を経験した父から聞かされていた戦時の食糧事情のことが、私を農業関係の仕事へと誘ったのではないかと思います。

道職員として農業改良普及員（現在は、普及指導員と改称）に奉職して15年、農業試験場勤務となつてからもうすぐ3年になります。普及員に成り立ての頃は、農家の皆さんが先生でした。また、同世代の農業後継者とは、昼夜を問わず農業技術について語り、切磋琢磨しました。今は、農業者に対して直接助言や支援をする機会は少なくなりましたが、生産現場の課題を研究に反映させる今の業務に普及員の経験が生かされています。

これまでの経験を見つめ直す、これが技術士受験の動機でした。農業部門、総合技術監理部門の受験を通じてその目的を果たした上に、多角的な視点で物事を見る癖ができました。また、多方面の技術士の方々と知り合うこともできました。私が取得した「農業及び蚕糸」は、まだまだ少数派ですが、仲間作りに励んでおります。技術士受験を通じて視野の広がり・人のつながりを多くの仲間にも感じてもらいたいなあと考えています。



次号は、杉浦輝陽さん（農業部門）



佐藤二三男 建設（施工計画・他）／総合技術監理部門

勤務先：株式会社開発工営社

私は道北の留萌市出身です。今年で社会人生活、30年目を迎えようとしています。この間、21年間は電気通信工事会社に勤務し、その後、現在の会社へ転職、河川構造物関係の調査、設計業務に従事しています。幾度も不合格を重ね、平成10年度、念願でありました技術士第二次試験に何とか合格でき、今日に至っております。

暑い夏の日、朝9時から夕方5時まで、ひたすら書き続ける技術士第二次試験を初めて受験した時、「こんな過酷な試験、どうしたら合格できるのだろうか？」と、必死に答案用紙と格闘する受験者の方々の姿を見て、自分の力のなさを痛感したことを、今でも鮮明に記憶しています。

先日、青函トンネル工事を舞台とした映画：「海峡」のDVDを職場の同僚諸氏に観てもらい、この映画についてそれぞれに感じた印象や、感想を述べてもらうことを企画してみました。感想として多かったキーワードでは、夢、ロマン、未踏、厳寒、家族、犠牲、愛情、事故、決断、挑戦、志、新技術、達成感等が挙げられ、簡単には一言で片付けることができない様々な背景や人間模様を、改めて再考する良い機会になりました。

時に先人達が英断、創り、守り、育み、幾多の困難を克服してきた世界に誇るべきわが国の建設技術が、最近の時代変革の大きな社会潮流に呑み込まれ、これまで培ってきた技術者としての気概や情熱までも失くしてしまうのではないかと、危惧しているのは私ばかりではないと思います。厳しい自然や気象条件に立ち向かい、未来のために注いだ先輩技術者達の熱き思いは、我々は決して忘れてはならないものと考えます。

「過酷な試験」の記憶が、このことを強く抱かせているのかもしれないと思う、今日この頃です。 以上



次号は、中田裕則さん（建設／総合技術監理部門）